

SORA

web magazine 2013.may. vol.15

Papua New Guinea

最後の秘境パプアニューギニアを巡る旅

熱帯雨林のジャングルに覆われた国PNGは、
海の中も濃密な世界が広がっていた。

野性味溢れるPNGを巡る旅へ。

Photo & Text : Kentaro Hosoda

MAP
CLICK!

驚き Surprise

ハシナガイルカの大群に遭遇！

Papua
New Guinea
パプアニューギニア

ハシナガイルカの大群と出会ったのは、ラバウルの新エリア、デューク・オブ・ヨーク群島周辺の海だ。ラバウルというと沈船スポットのイメージを持つ人もいるかもしれない。しかし、今回の取材では、新しいダイビングポイントがあるエリア、デューク・オブ・ヨーク群島へ向かった。ここは大物あり、ドロップオフあり、サンゴありと、今までのラバウルのイメージを覆すダイビングがたっぷり楽しめる新スポットなのである。

鏡のような水面をボートが滑るように進んでいると、ハシナガイルカがやってきた。そして、舐先でボートと競争するように一緒に泳ぎ始めた。時々、イルカはクリっとした目でこちらを見る。イルカと目があうとそれだけで幸せな気分になれるのは、なんとなくイルカの意味が感じられるからだろうか。やがて、別の群れジャンプしながらやってきた。ハシナガイルカは英語でスピナードルフィンと呼ばれるように、身体をぐるぐると回転させながらジャンプをする派手なパフォーマンスを見せてくれた。ジャンプの瞬間がうまく撮れると、「ヒャッホー！」と思わず叫んでしまうほどの興奮。時間いっぱいまで、ハシナガイルカと楽しい時を過ごした。

Ocean

魚の密度の濃さに圧倒された!

キンベ湾の「ブラッドフォード」にエントリーすると、根のトップに渦巻くバラクーダの巨大な黒い塊が見えた。バラクーダは追いかけると散ってしまうので、群れと並行にゆっくりと泳ぎ、少しずつ距離を詰めていく。やがてバラクーダは、僕を囲むように円を描いて泳ぎだした。そして、先頭のバラクーダが最後尾に追いつき、周囲360°視界のすべてがバラクーダとなった。魚の群れに巻かれる瞬間は、何度体験してもドキドキする。

タワリでは、カスミアジに追われたメアジの群れが、アメーバのように形を変化させていた。群れがひとつの生き物のよう一糸乱れずに動く様は見事だった。さらにパープルビューティーやキンギョハナダイも数が多い。魚の量が半端じゃないのがPNGの特徴だ。

PNGはエリアごとに楽しみ方が変わるので、一度のダイビングトリップで2箇所のダイビングスポットを巡るというのも面白いだろう。

Papua
New Guinea
パプアニューギニア

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島



O 海
cean

Papua
New Guinea
パプアニューギニア

花吹雪のようなキンギョハナダイの群れ

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

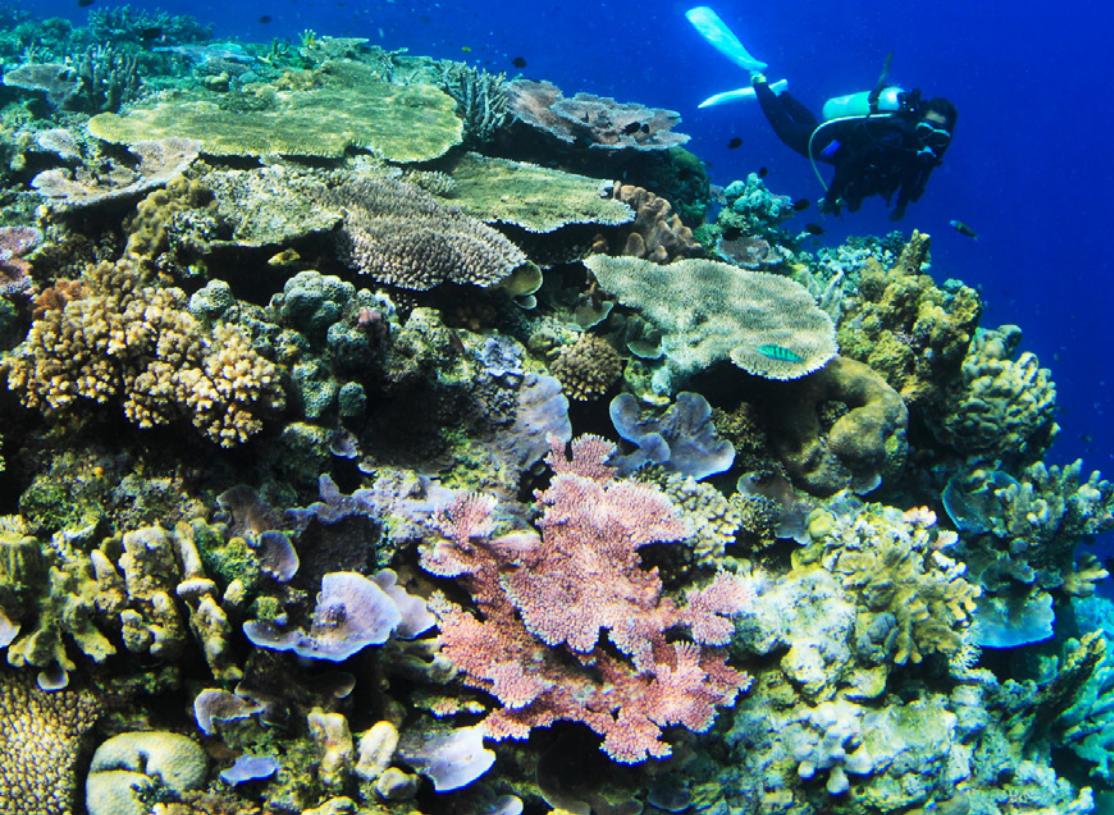


O 海 cean

カラフルな色彩が溢れた海

PNGの海はテーブルサンゴ、枝サンゴ、リュウキュウキッカサンゴ等、多くのサンゴが海底一面にひしめくようにして広がっている。近年、海水温上昇で世界各地のサンゴがダメージを受けた。ところがPNGのサンゴは元々が高めの海水温に適応しているようで、どこもイキイキと元気に育つ姿が見られた。特に浅場のサンゴは、ピンク、グリーン、ブルーなど色鮮やかなサンゴが多く、色彩が溢れている。これらのサンゴが水面に映り、カラフルな色が揺らめく様子はとても美しい。さらにオブジェのようなリュウキュウキッカサンゴが群生していたりと絵になるところが満載だ。

Papua
New Guinea
パプアニューギニア



レックダイビングのメッカ、ラバウル

ラバウルは旧日本軍の司令部があったところで、シン普森湾に停泊していた船舶は、連合軍の攻撃を受けて多くの船が沈んだ。現在はレックダイビングスポットとして欧米では有名な場所となっている。実際に潜ってみると貨物船は砲弾を受けた大きな穴が開いており、爆発の大きさが伺える。穴から船内に入ることは可能だが内部は真っ暗なので、ライトがあったほうがベター。また、ゼロ戦は、プロペラやコクピットなどが残っており、ほぼ完全な形が見られる。レックポイントは全般に水深が深く、甲板のトップで水深25~30mくらい、ボトムは水深40~50mにもなる。ダイブコンピュータのチェックは忘れずに。

ラバウルはレックポイントだけでなく、デューク・オブ・ヨーク群島周辺で、大

物、ドロップオフ、サンゴなどの変化に富んだ水中景観が見られる。明るい雰囲気ダイビングを楽しみたいなら、こちらがお勧めだ。



R^{ロマン} Romance

Papua
New Guinea
パプアニューギニア

ジャングルから差し込む 光のシャワー

水面を見上げると、木々の隙間から太陽の光がシャワーのように降り注いでいた。タワリの「コーラルガーデン」では、岸近くの水路を泳ぐと、ジャングルから木漏れ日が差し込む幻想的な景色が見られる。光の帯はキラキラと煌めき、ポツッと跳んでいるだけで癒される。水面には森の緑が映っていて、そこをサヨリがゆっくりと泳いでいく。PNGはこんなピースフルで癒し系のダイビングも楽しめる。海と森と光が織りなすハーモニーのおかげで、至福の時間を過ごすことができた。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく



R^{ロマン}omance

レイシースコーピオンフィッシュに会いたい！

Papua
New Guinea
パプアニューギニア

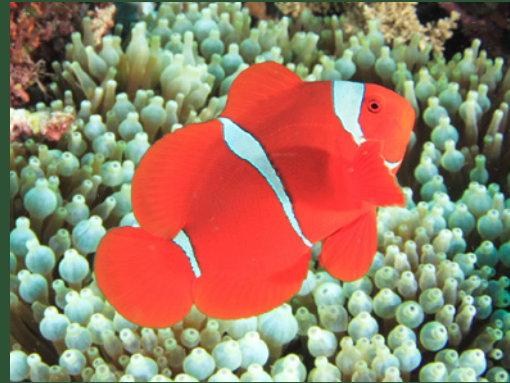
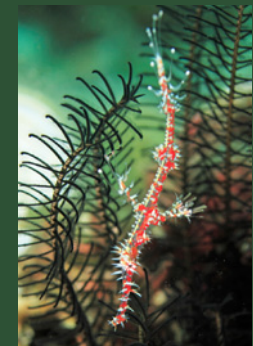
tsumi-shima
クニハラの夢をつみあげていく



マクロ生物もPNGの魅力のひとつ。特に全身を皮弁で覆われたボロカサゴの仲間、レイシースコーピオンフィッシュは、PNGに来たら是非見たい魚だ。この魚はパプアニューギニアやオセアニア周辺のみ生息している固有種。僕はこの魚をずっと見たいと思っていて、PNGに行く機会が訪れたときは歓喜したことを覚えている。レイシーの体色は緑、赤、紫など、いくつかのカラーバリエーションがある。レア系ではあるが、比較的出现率は高いほうだ。

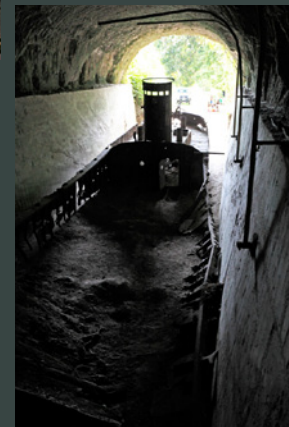
他にもゴーストパイプフィッシュ、アケボノハゼ、クマドリカエルアンコウなど、フォト派に嬉しい生物たちが数多く生息している。通常深場で見られることが多い魚が浅いところで見られるのもPNGの特徴だ。アオマスクが水深12mで見られたのにはビックリした。

取材時はガイドさんが2人がかりで生物を探し、ひとつの被写体を撮っているうちに、次の生物を見つけているという贅沢なダイビングをさせてくれた。気がついたらあっという間に100分が経過。この間、撮影が途切れることがほとんどなかった。飽きさせずに100分撮り続けられる生物の濃さに驚かされる。





Papua
New Guinea
パプアニューギニア



A行動 Action

熱帯雨林のジャングルに 覆われた島

パプアニューギニアは赤道の南にあり、熱帯雨林のジャングルに覆われている。多くのリゾートはPNGの豊かな自然を感じられるような造りになっており、緑に囲まれながらのんびりと滞在することができる。現地の人たちはフレンドリーで、特に子どもたちにカメラを向けると大はしゃぎ。最高の笑顔を見せてくれた。

また、ラバウルは旧日本軍の司令部、山本バンカー、当時の兵器や資料が展示されたコボポミュージアム。またトンネルの中に艇を格納していたジャパニーズ・バージントンネル、洞窟内部の病院跡など、多くの戦跡が残っている。ラバウルは小説「永遠の0」でも描かれており、興味がある人はこれらの戦跡を訪れてみるといいだろう。

A 行動 Action

Papua
New Guinea
パプアニューギニア

2つの ダイビングスポットを 巡る旅へ

パプアニューギニアは約600の島々からなり、日本の国土の約1.2倍ほどの面積を持つ、かなり大きな島だ。気候は熱帯モンスーン気候で、乾季が5～11月、雨季が11～4月となっている。乾季と雨季で風向きが変わるため、季節によってダイビングに適したシーズンのエリアが変わる。そのため一年を通してどこかのスポットで潜れるというメリットがある。

日本からのフライトは週一便となっており、日本を土曜に発ち、次週の土曜戻りが基本パターン。現地の日程に余裕ができるので、PNGのダイブスポット2箇所を巡ることもできる。一度のダイビングトリップで2スポットを巡れば、海の雰囲気も変わり贅沢な休暇が楽しめる。もちろん、1つのスポットを集中して潜り倒すというのもアリだ。PNGの豊かな海は、きっとダイバーの好奇心を満たしてくれるだろう。



Information

●国名：パプアニューギニア独立国 ●ビザ：必要。ポートモレスビーの空港で取得できる。事前に日本で取得することも可能。 ●パスポート パスポートは、有効残存期間6ヶ月＋滞在日数が必要。 ●言語：英語、ピジン語、モツ語 ●通貨：キナ及びトヤ（1キナ＝100トヤ）。1キナ＝約50円（2013年5月現在） ●時差：日本より1時間早い。日本が正午の時、パプアは午後1時。 ●電圧：240v/50Hz。プラグはOタイプ ●水：ミネラルウォーターの飲用を。 ●行き方：成田からパプアニューギニアの首都ポートモレスビーまで直行便が週一便飛んでいる。所要時間は約6時間25分。フライトがあるのが土曜日なので、土曜日出発で翌週の土曜日戻りが基本プランとなる。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく国

We
World explorer

